

第 2 章 被害状況



1. 住宅被害



(7/28)12区

家屋等被害(住家)					家屋等被害(非住家)		
合計		140 棟			合計		4 棟
大規模 半壊	半壊	準半壊	一部損壊		準半壊	一部損壊	
			床上	床下		床上	床下
2 棟	24 棟	23 棟	10 棟	81 棟	1 棟	1 棟	2 棟



(7/29)田井



(7/30)押切

2. 河川・道路被害



(7/29) 押切：ひなの橋付近

■町道被災箇所	11箇所
■通行止め箇所	11箇所
■河川被害箇所	4河川 8箇所



(7/29) 西里：根際土入線



(7/29) 溝延：泊川地内



(7/29) 西里：浦田地内

3. 農地・農業施設被害



(7/30) 溝延：前野地内

■ 農業関連被害

- | | | |
|-------------|-------|-----------|
| (1) 大規模農地冠水 | 9箇所 | 325ha |
| (2) 農作物 | 276ha | 529,246千円 |
| (3) 施設被害 | 184件 | 305,995千円 |
| (4) 農道 | 8箇所 | |

■ 林道関連被害

- | | | |
|--------|------|--|
| (1) 林道 | 46箇所 | |
|--------|------|--|



(7/30) 谷地：下野地内



(8/3) 溝延：泊川地内

寒河江川土地改良区 課長 松田 和之

令和2年7月27日から前線及び低気圧の停滞による豪雨の影響で各所での土砂崩れ、溝延・吉田東地区の無堤防区間の最上川溢水や最上川の逆流による古佐川越水、そして大久保第二遊水地の貯水により4つの用排水機場の水没と農地冠水といった今まで類のないほどの施設破損と農地土砂堆積等といった甚大な被害を受けた。このような中で施設管理人や職員の怪我等の人的被害はなかったのが不幸中の幸いでした。

しかし、この災害を受け、ボーイスカウトの標語であるが「そなえよつねに」の精神を持つことの重要性に思い知らされました。それは、強靱な災害対応のため、関係諸団体とどのように連携していくか、施設管理者の命をどのように守るか、復旧プランと対処方法をどのようにするかといったことを事前にシミュレーションし、組織として備えることです。

今後、豪雨災害以外の災害が起こる可能性は少なくありません。我々土地改良区も今後の災害に向け、強靱な対応ができるようにしっかりと備えていきたいと考えています。



(8/4)北谷地：吉田東地内



(7/29)林道：岩木田代線

河北町農事実行組合長連絡協議会 会長 太田 美郎

7月28日地元の押切地区では排水ポンプを稼働させていた。最上川増水時はいつもの光景である。通常増水では河北橋に通じる道路を溢流する事は無く、いつもの増水で終わるだろうと皆が思っていて、自分たちの農業用機械等の高地への移動など誰も考えていなかった。夕方になり急に増水し、事の重大さに気付いたのである。避難指示が出されて人は避難したが、後で思えば、家の中の家財、自動車、農業用機械等助かる時間的余裕が多くあったと悔しい思いである。

押切地区では50年前の羽越豪雨で、町内会の半数近くの家が床上浸水しており、またいつかは来るだろうと思っていました。あの頃は、どの家も電化製品化、農業機械化等あまりしておらず、家の造りも土壁等であり今と比べると被害額は少なかったと思います。農業施設も今はハウス、農作業小屋等が一度浸水すると数千万円の被害となり復旧するのに大変です。さくらんぼの成木は3日以上浸水しており、一年後になってから枯れ始める状態で、苗木を植えても成木になって収穫するまで10年はかかります。今一番欲しいのは最上川の堤防と排水ポンプ場です。それを作っていただき家と農地を守りたい。一日も早い完成を待ちたいと思います。

河北町林業振興協議会 会長 後藤 寛治

災害は忘れた頃に起こる、あるいは100年周期で起きると多くの識者の話を聞いてきました。

わが町の年表によれば町の地形上のためか寒河江川、最上川の増水による被害の記録はあれども、山間地帯での大規模災害発生に関する記録はなく、今回は今まで誰も経験したことのない大災害であったことがわかりました。

令和2年6月は「カラ梅雨」と予想されていましたが、予想は狂い、7月に入ると18日間の降雨を記録しました。そのために山が動き、斜面の杉や松などの立木が倒木地滑りとなり、古佐川を塞ぐ状況となりました。川から溢れた水は林道を走り、道路に亀裂を生み、車の往来ができなくなる大災害となったのでした。激甚災害と認められ、災害復旧工事に入り、今は関係者の協力を受けながら復旧を待っている所です。一日も早い復旧がなされることを願っています。

4. 商工業被害



■ 町内事業所被害

(1) 被災事業所数 24 事業所

谷地工業団地連絡協議会 会長 工藤 亮輔

令和 2 年 7 月 28 日に発生した豪雨災害は、これまで経験したことのない被害をもたらしました。夕方近くになって、最上川からの逆流を防ぐため水門を閉じる措置がとられました。その結果、団地内の内水が駐車場を覆い始め、時間の経過とともに事務所や倉庫内にも水が浸入してきました。そのころ消防団のポンプ車が堤防に到着し、最上川への排水作業が始まり駐車場の水が少しずつ減っていくのが確認できました。しかし、20 時頃、消防団の現場退避指示が出され作業が中断、団地内の行き場を失った水は当社でも事務所の 85 cm まで達し、事務所、倉庫内の商品、トラック、通勤車が水没の被害を受けました。翌日、片付け作業を始めるにあたり、いち早く行政側で廃棄物の受付及び置き場の確保をしていただけたことは大いに助かりました。

今回の災害を受け、企業側でも河川情報を取り入れ、状況を予測し、準備しておくことの重要性を改めて認識しました。

また、団地においては、側溝から溢れた水の初期対応として可搬式ポンプを設置しました。今回の豪雨災害は、排水作業を中止せざるを得なかったことが、被害が甚大となった要因の一つにあったと思われます。今後、無人でも稼働できる大型ポンプを設置できれば、被害は少なくて済むと考えられます。課題は山積みであり、河川の問題は一朝一夕にして解決できるものではありませんが、行政と一体となって取り組んでいきたいところです。

5. その他被害



■停電被害(山崩れ等による)

日時：7月28日

15時56分～18時35分

戸数：最大1,469戸

地域：西里・大字岩木・谷地西部
地区等

■断水被害(道路崩落による)

日時：7月30日判明 当日復旧

人数：1戸

地域：押切



6. 浸水区域

浸水区域は、家屋被害調査、農地被害現地調査、航空写真等を参考に作成。

